

【東京晴海水素ステーション】中央区まちづくり基本条例に基づく協議について

■まちづくり基本条例 開発計画に反映する事項 適用一覧表

中央区まちづくり基本条例第7条第1項各号に定める開発計画への反映事項
⇒4つの区分ごとに2つ以上の対象施設を選択

区分	対象施設等	選択項目
環境対策	①地上部・屋上の樹木等の植栽	
	②喫煙所	
	③カーシェアリング用駐車場	○
	④電気自動車用充電設備付駐車場	○
	⑤省エネルギーに資する設備の設置	
	⑥再生可能エネルギー活用施設	
	⑦地域冷暖房用プラント	
	⑧雨水利用するための貯留施設(日常時)の設置	
	⑨公園・児童遊園	
	⑩防風スクリーンの設置、防風のための植栽	
	⑪コミュニティサイクル用駐輪スペース	
	⑫道路の表層・基層・街築の整備	
	⑬その他これらに類する環境対策に寄与するもの	○
防災対策	①避難の用に供する広場	
	②地域防災備蓄倉庫	
	③帰宅困難者一時待機場所及び一時滞在施設	
	④災害用設備の設置	○
	⑤情報発信施設	
	⑥雨水利用するための貯留施設(災害時)の設置	
	⑦雨水流出抑制用の貯留施設	
	⑧消防団活動施設	
	⑨防災船着場	
	⑩その他これらに類する防災対策に寄与するもの	○
交通対策	①-1 自動車駐車場	
	①-2 自動車駐車場 (「中央区東京駅前地区附置義務駐車施設整備要綱」の対象地区の場合)	
	②自動二輪車駐車場	
	③自転車駐車場	
	④地下鉄出入口の整備	
	⑤歩行空間の整備	○
	⑥電線類の地中化整備	
⑦その他これらに類する交通対策に寄与するもの	○	
景観形成	①建築物・工作物等の形態	○
	②建築物・工作物等の色彩	○
	③その他これらに類する良好な景観の形成に寄与するもの	

中央区まちづくり基本条例第7条第2項各号に定める開発計画への反映事項
⇒5つの区分のうち1つ以上を選択し、選択した区分ごとに1つ以上の対象施設を選択

区分	対象施設等	選択項目
子育て支援	①保育所	
	②地域型保育事業所	
	③幼稚園	
	④認定こども園	
	⑤児童館	
	⑥一時預かり保育施設	
	⑦病児・病後児保育施設	
	⑧子育て交流施設	
	⑨赤ちゃん・ふらっと事業に関する施設	
	⑩その他これらに類する子育て支援に寄与するもの	
高齢者福祉	①特別養護老人ホーム(地域密着型を含む)	
	②介護老人保健施設	
	③(看護)小規模多機能型居宅介護事業所	
	④認知症高齢者グループホーム	
	⑤軽費老人ホーム・ケアハウス	
	⑥高齢者向け住宅	
	⑦地域住民の交流や高齢者の健康づくりに寄与する施設	
	⑧地域住民の交流や高齢者の健康づくりに寄与する広場	
	⑨その他これらに類する高齢者福祉に寄与するもの	
障害者福祉	①日中一時支援事業に関する施設	
	②障害者グループホーム	
	③障害者就労支援施設	
	④障害児通所支援施設	
	⑤生活介護施設	
	⑥短期入所施設	
	⑦その他これらに類する障害者福祉に寄与するもの	
地域活動の支援	①集会場	
	②地域活動の用に供する広場	
	③コミュニティルーム	
	④スポーツ・生涯学習施設	
	⑤その他これらに類する地域活動の支援に寄与するもの	○
観光支援	①観光案内所	
	②観光客の一時休憩所	
	③観光バス乗降所	
	④その他これらに類する観光支援に寄与するもの	

環境対策

③カーシェアリング用駐車場

カーシェアリング用駐車場を整備します。

④電気自動車用充電設備付駐車場

電気自動車用充電設備付き駐車場を整備します。

⑬その他これらに類する環境対策に寄与するもの

水素ステーションを整備します。

カーシェアリング用駐車場の整備

- カーシェアリングサービスを提供し、地域住民の「シェアリング・エコノミー」の意識醸成やライフスタイル定着に貢献します。
- 利用車両としてFCVを1台配置し、マイカーを所有しない地域住民にもFCVを利用する機会を提供し、水素エネルギーの利用を促進します。

電気自動車用充電設備付駐車場の整備

- 電気自動車用充電設備の整備により、地域住民へ次世代自動車の利用を促します。

水素ステーションの整備

(1) 車両向け水素供給

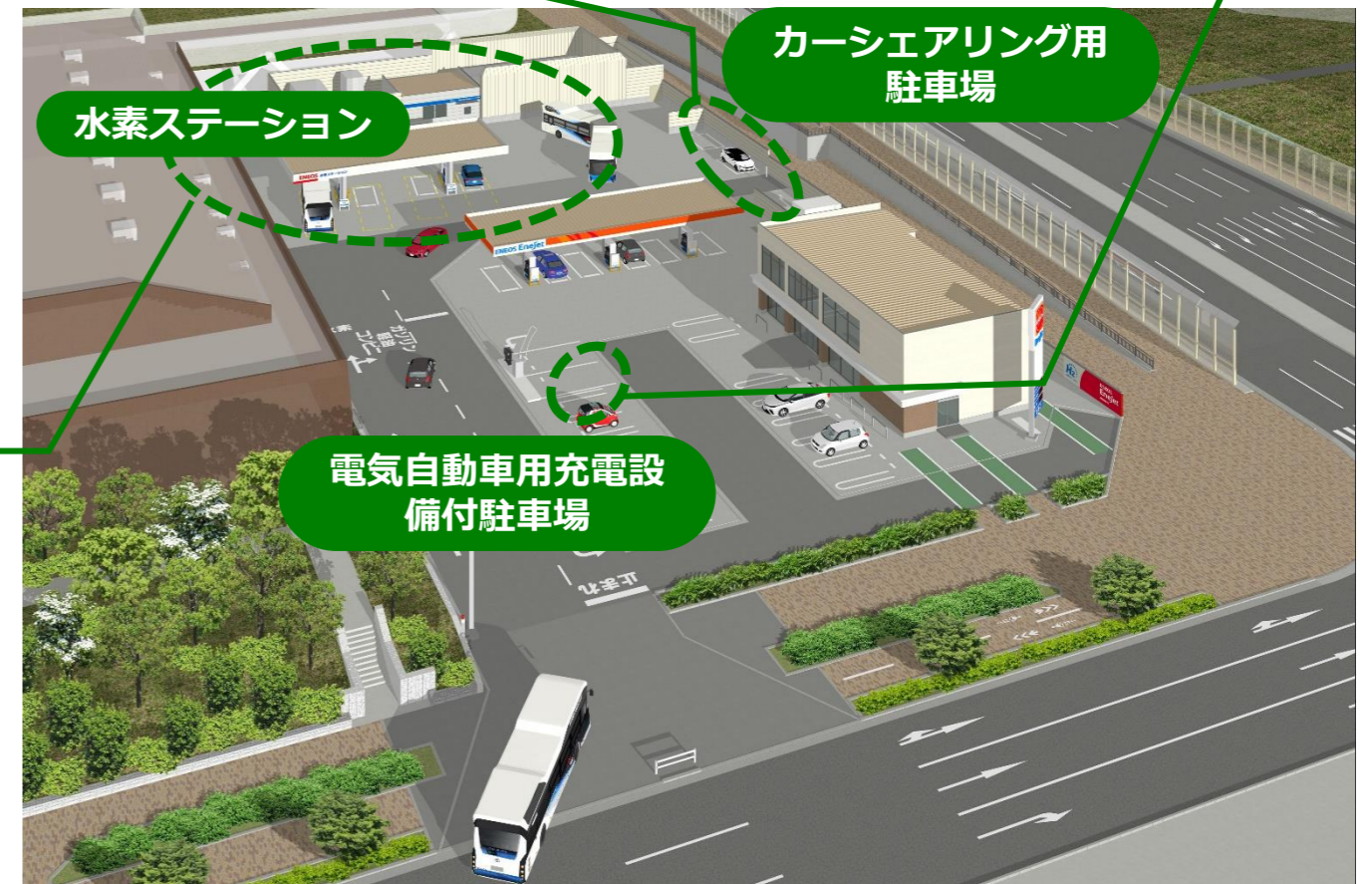
⇒ FCVおよびFCバス、FCBRTの普及・利用を促進し、地域住民の低炭素な移動を支援します。

【FCV・FCバス・FCBRTの特徴】

- ・走行時に排気ガス（窒素酸化物 (NOx) や硫黄酸化物 (SOx)）、二酸化炭素 (CO2) を出さない。
- ・騒音が少ない（モーター駆動による高い静粛性）

(2) 街区向け水素供給

⇒近隣マンション(共用部)における純水素燃料電池の定着・促進を促します。



※今後、協議により変更となる可能性があります。

防災対策

④災害用設備の設置

⑩その他これらに類する防災対策に寄与するもの

- ・カーシェアに一部利用されるFCVを**非常用電源として活用**します。
- ・**エネルギー啓発施設（2階 約140㎡）の非常時開放**を行います。また、**食糧・水の供給、電源供給、トイレ開放**を行います。

災害用設備の設置

- 非常時、カーシェアリング用FCVのFCスタック（FCVの発電装置）により発電した電力を電源として利用することが可能となります。

⇒**携帯電話への充電や、炊き出し等に活用**

18年9月北海道胆振東部地震における活用事例



札幌市（市役所本庁舎）
約2,000人※の方々に携帯電話充電サービスを実施
※人数は非常用自家発電機分も合わせた分

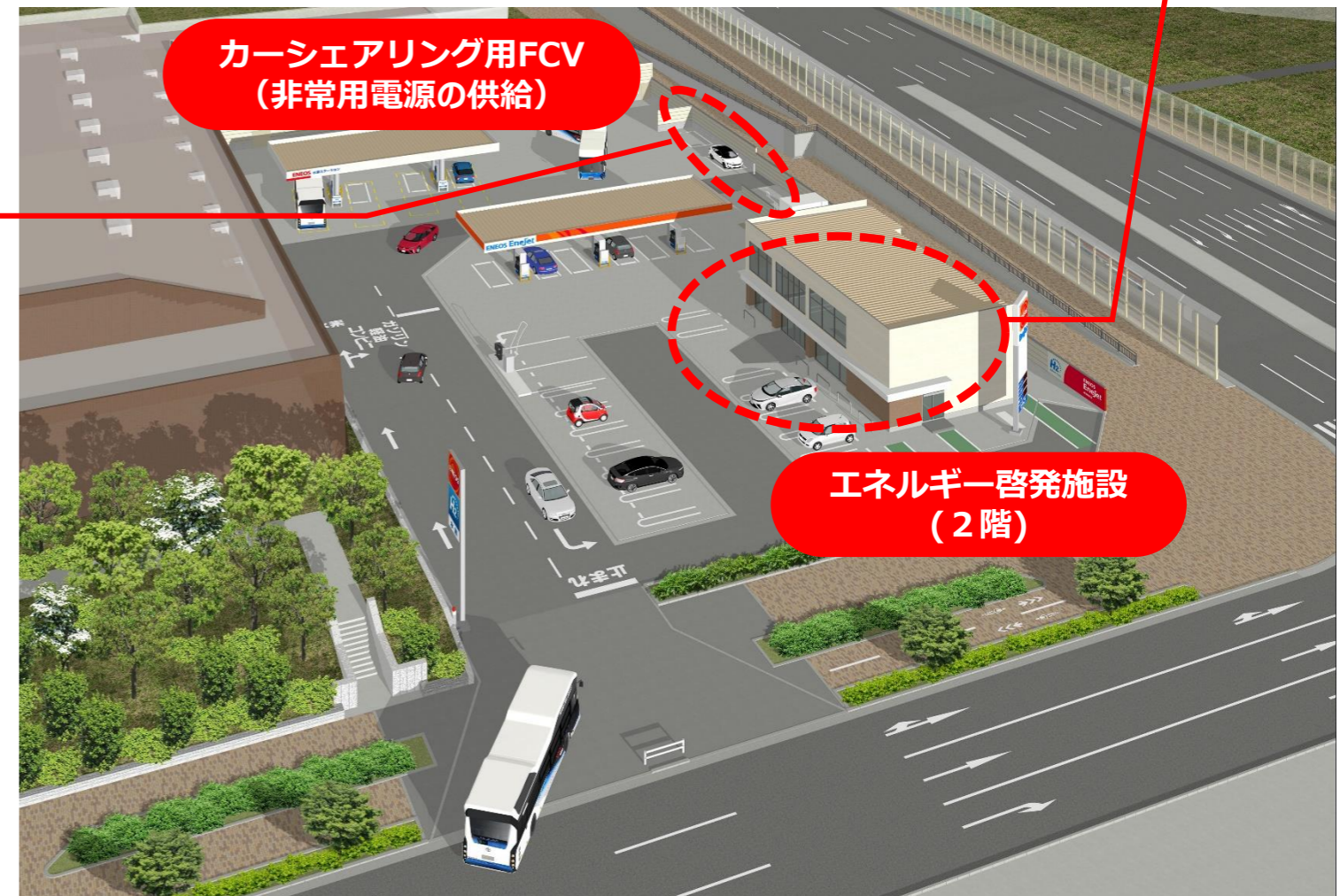


室蘭市（サンライフ室蘭）
自主避難所に定置型給電器(V2H)を介し照明、テレビ、携帯電話充電の電源として、公用車FCVから給電

出典：国交省北海道開発局 北海道水素地域づくりプラットフォーム 平成30年度 第1回会合資料

エネルギー啓発施設

- 災害時、**エネルギー啓発施設（2階 約140㎡）を開放し、食糧・水の供給、電源供給、トイレの開放**を行います。



⑤歩行空間の整備

歩道と一体となった歩道状空地を整備します。

⑦その他これらに類する交通対策に寄与するもの

FCバス・FCBRT・FCVへの水素エネルギー供給により、利用促進を推進し、「都心と臨海地域とを結ぶBRTに関する事業計画」、「中央区総合交通計画」等の交通政策に寄与します。

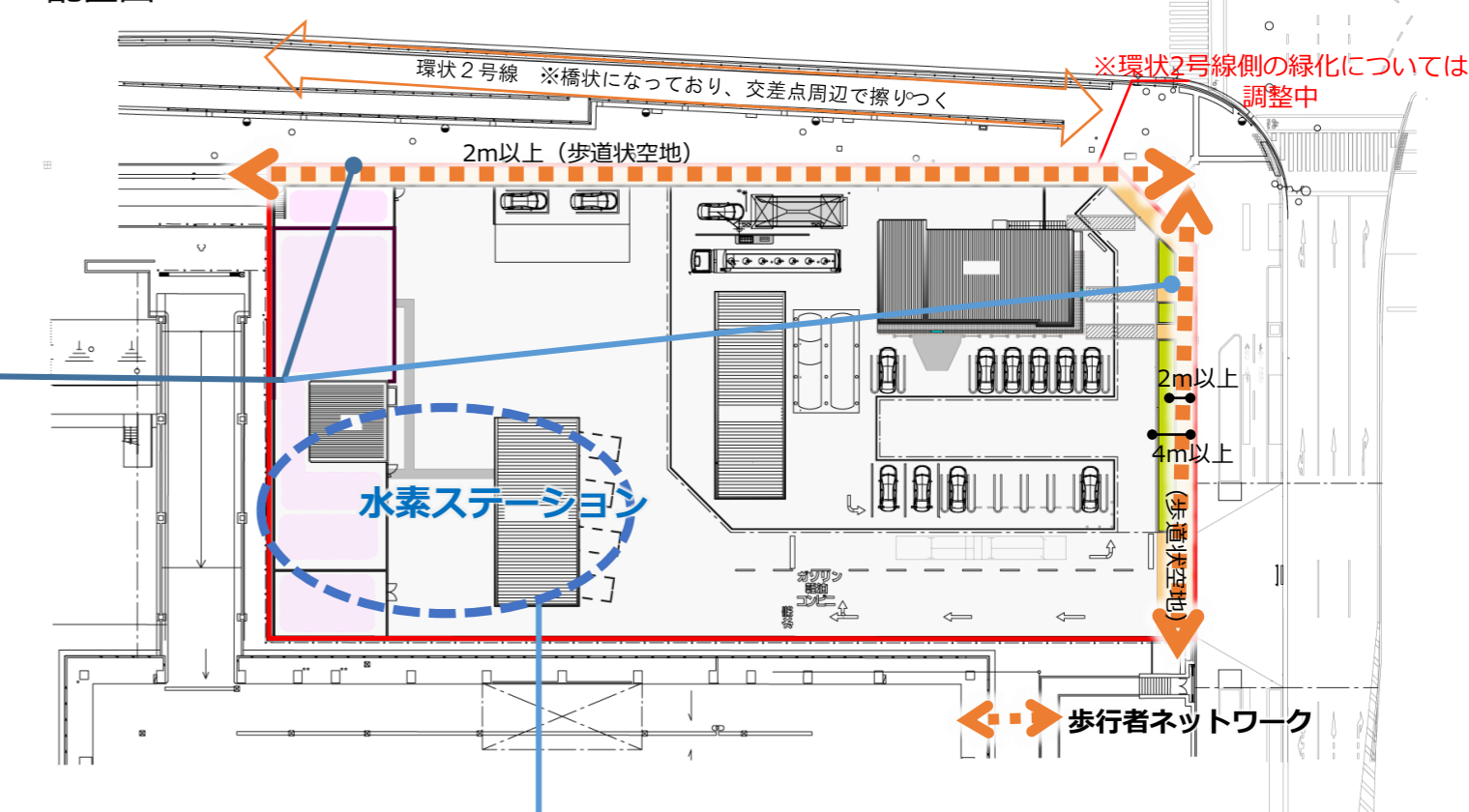
歩道状空地の整備

●ゆとりある歩行者空間の整備により、地域と一体となった歩行者ネットワークを形成します。

●歩行者空間と補助第314号線のみどりのイメージ



■配置図



FCバス・FCBRT・FCVへの水素エネルギー供給

●水素エネルギーの供給により、FCバス・FCBRT普及のための交通政策の実現に寄与します。

【都心と臨海地域とを結ぶBRTに関する事業計画（東京都都市整備局 2018年8月）】

- 単車バスについて、本格運行時に全数燃料電池バス（FCバス）の導入を進める。
- 連節バスについて、低公害型連節バスの導入を進め、将来的には全数燃料電池連節バス（FCBRT）の導入を目指す。

●水素エネルギーの供給により、FCバス・FCBRT・FCVの利用を促進し、自動車利用に伴う環境負荷の軽減（輸送手段の省エネ化）に寄与します。

【中央区総合交通計画（中央区 2012年6月）】

<目標>

自動車利用の抑制、輸送手段の省エネ化を進めることで、環境負荷を軽減する

<施策>

- 基幹的交通システムの導入（LRT・BRT整備）
- 公共交通のサービス拡充 など

■BRT本格運行（本線トンネル）

本格運行（4系統）

環状第2号線 本線トンネル開通（2022年度）後
選手村まちびらき後



新会社による運行

■単車バス（燃料電池バス）イメージ

【スペック】

定員：78名
全長：10.525m
全高：3.34m

【燃料電池バスのメリット】

- ・走行時にCO₂や環境負荷物質を排出しない。
- ・外部給電が可能。



■連節バスイメージ

【スペック】

定員：129名
全長：17.99m
全高：3.08m

※ 現在京成バス株式会社で運行している連節バスの諸元



引用：「都心と臨海地域とを結ぶBRTに関する事業計画」（2018年8月）

良好な景観の形成

① 建築物・工作物等の形態

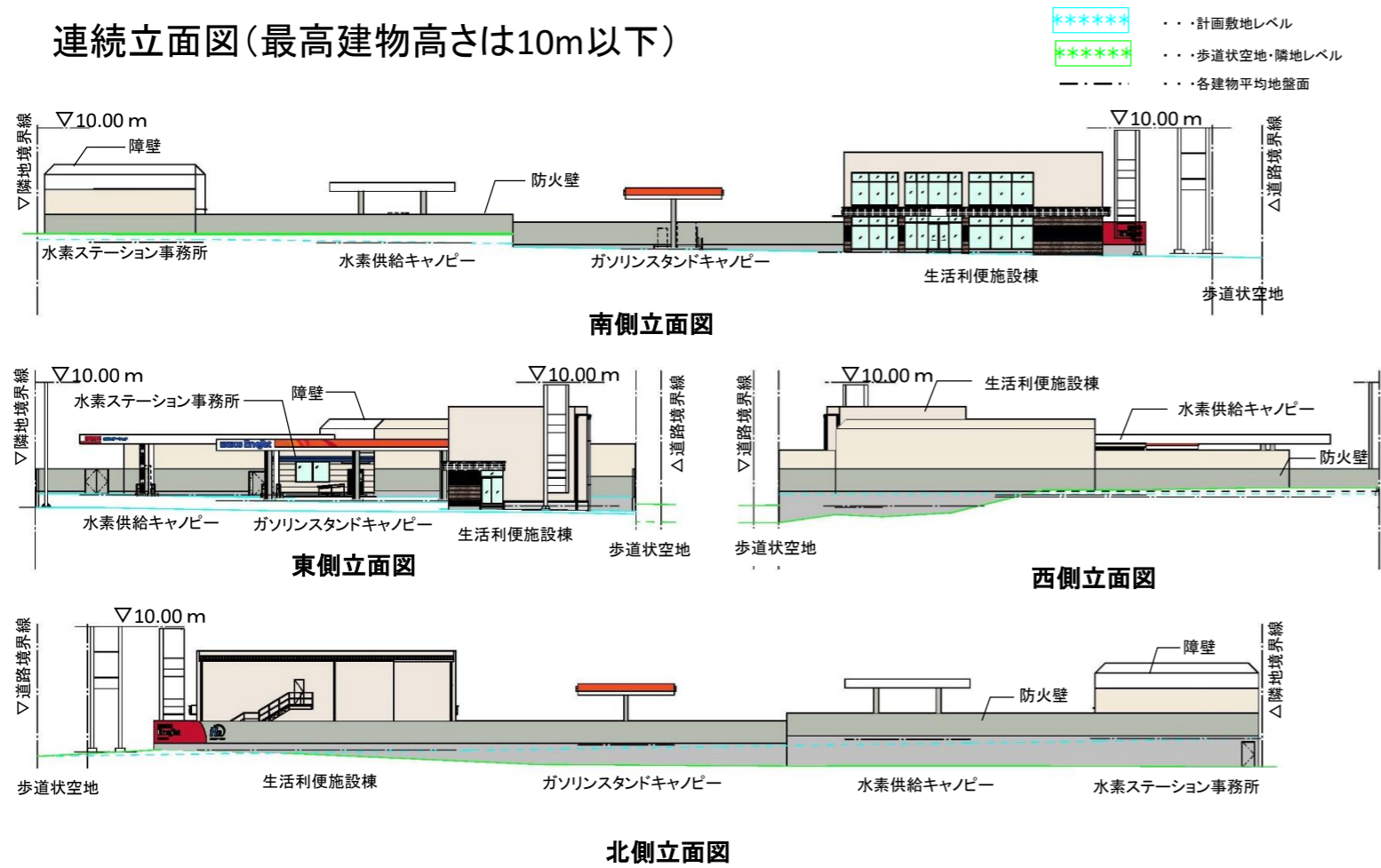
東京都景観計画及び晴海まちづくりの考え方に沿った形態・色彩により計画を行います。

② 建築物・工作物等の色彩

形態

- 周囲と調和するように高さをおさえ、**圧迫感を軽減**します。

連続立面図(最高建物高さは10m以下)



色彩

- 店舗棟外壁は、周囲と調和するように、**アースカラーの素材**を使用します。
- 敷地を取り囲む防火壁についても周辺街区に合わせた、表情のあるやわらかい**アースカラーの素材**を使用します。
(※一部はコーポレートカラー使用)



店舗棟外壁の仕様イメージ



イメージ画像

防火壁の仕様イメージ



イメージ画像



照明

- 夜間照明にも配慮し、**歩道状空地及び防火壁に電球色の照明を整備**します。

- ・ 補助第314号線側
歩道状空地 (4m以上) における植栽帯部分にポール灯を電球色にて配灯



イメージ画像



ポール灯 (案)



- ・ 環状第2号線側
歩道状空地 (2m以上) の防火壁にフットライトを電球色にて配灯



イメージ画像



埋め込み型フットライト (案)

⑤その他これらに類する地域活動の支援に寄与するもの

水素ステーション、エネルギー啓発施設を通じて、晴海の持続的なまちづくりや環境、防災について、誰もが実際に見て、学べる機会を提供します。

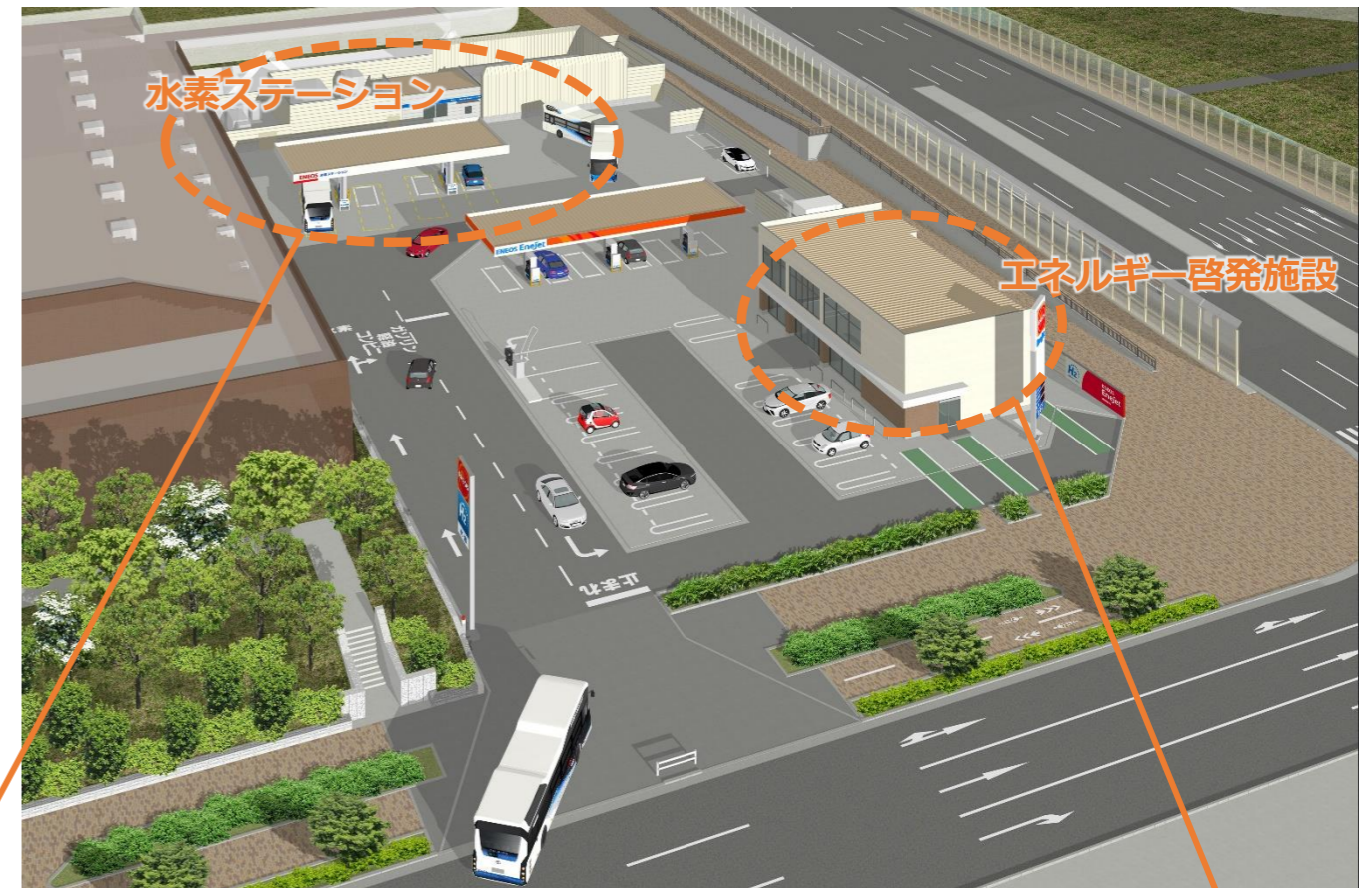
晴海のまちづくり、環境、防災に関する学習の場の創出

BRT、晴海フラッグでの水素利用など、晴海のまちづくり、環境、防災について学べる機会を提供します。

(地域住民を対象にした水素ステーション見学会等を通じ、晴海の“持続的なまちづくり”や水素エネルギーの啓発活動を実施)

【見学会説明コース案】

①水素STの設備 ➡ ②街区向け水素供給設備 (ST内) ➡ ③FCV説明 (カーシェア用のFCVを使用、非常時電源供給について説明)



水素ステーション

- 水素ステーション、エネルギー啓発ギャラリー、ガソリンスタンド、FCVのカーシェアが併設した施設は国内初であり、リーディングプロジェクトとして、今後の水素社会を牽引することが期待できます。
- 利用時にCO2を排出しない水素エネルギーの供給ステーション整備を通じ、地域住民に、低炭素な街づくりに向けた意識醸成を促します。

※「東京ベイeSGプロジェクト」(2021年4月策定)においても、「戦略1 ゼロエミッションの実現、水と緑溢れる都市づくり」において、再生可能エネルギーと水素を柱とした100%クリーンエネルギーで賄うことが示されている。

エネルギー啓発施設

- 地域住民の水素への理解を深めるため、水素エネルギーに関する情報(例:晴海地区での車両および街区における水素利用について)を発信するギャラリーを併設します。
- エネルギー啓発施設は、生活利便施設の2階に設置することで、給油中にも気軽に立ち寄り、水素エネルギー等のエネルギーについて学べる環境を形成します。